

三股町教育研究所

I	研究主題及び副題	4-1-1
II	主題設定の理由	4-1-1
III	研究目標	4-1-2
IV	研究仮説	4-1-2
V	研究の基本的考え方	4-1-2
VI	研究組織	4-1-2
VII	研究構想	4-1-3
VIII	研究内容	4-1-4
1	学習指導研究班	4-1-4
(1)	授業モデルに関するアンケートの集計と分析	
(2)	各教科におけるタブレットPCの活用例	
(3)	授業検証	
2	学習習慣研究班	4-1-7
(1)	家庭学習に関するアンケートの目的	
(2)	家庭学習に関するアンケートの集計と分析1 (教師対象)	
(3)	家庭学習に関するアンケートの集計と分析2 (保護者対象)	
(4)	タブレットPCの活用上のルール	
IX	成果と課題	4-1-10
○	参考文献	
○	研究同人	

I 研究主題及び副題

研究主題 みまたん子の学力を伸ばす学習指導法の研究

副題 各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を通して

II 主題設定の理由

平成32年度から小学校が、平成33年度から中学校が、次期学習指導要領による教育課程がスタートする。今回の改訂では、これからの社会は、人工知能（AI）が進化して、人間が活躍できる職業はなくなるのではないかと、また、今学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないかと、ということが危惧されることから、子どもたちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育の実現を目指そうとしている。そのためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするかを教育課程において明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくこと、すなわち「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となっている。そして、そのような教育課程の実現を図り、児童生徒に「生きる力」を育むことを目指すことが必要とされている。それは、各教科等の指導を通して、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」を育むことであり、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等の視点で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていくことである。さらに、今回の学習指導要領の改訂の重要なポイントの一つに「情報活用能力の育成」を挙げている。情報活用能力を、教科等を超えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力と位置付け、教育課程全般を通じて確実に育成すること、そしてICTを活用した学習活動の充実を図ることを規定している。

また、本県においては「第二次宮崎県教育振興基本計画」が平成23年度から32年度の10年間の計画として策定され、少子高齢化、人口減少時代の到来、国際化・グローバル化等の社会情勢の中で、「未来を切り拓く心豊かでたくましい宮崎の人づくり」を目指している。その基本計画の「施策の目標Ⅱ－施策7」に、教員のICT活用指導力の向上を位置付けている。

「文教三股」と言われてきた三股町は、昔から教育熱心で幾多の人材を生んだ誇り高い土地柄である。「文教三股」とは、400年の歴史を持つ郷中教育、それを振興した三島通庸、この精神を受け継いで三股を築いた人々によって形成された言葉である。三股には「米の倉より頭の倉」という言葉があり、経済的な困難にもめげることなく教育に力を注ぐ教育尊重の気風がある。そのような中で、これまで本町では、平成22年度には児童生徒自ら「児童生徒憲章」を策定し、小中9年間を見通し共通実践として、「校門での一礼」「黙想座礼」「無言清掃」「郷土学習」などの「伝統教育」を行ってきた。また、「教育の情報化」を推進し、教科指導におけるICTの活用、情報教育、校務の情報化に取り組み、学校教育の質の向上を図ってきた。特に平成28年度は、宮崎県教育委員会指定「子どもの学びを高める“ひむか”の授業づくり推進事業」の「基礎学力定着指導実践推進の地域指定」により、三年間の成果を研究公開した。この研究により、教師の授業改善や家庭学習の充実が図ることができ、児童生徒の学力向上につながったと考える。今後も引き続き、学力向上のために教師の授業改善と家庭学習の充実を図る必要がある。

そこで、本年度は、本町教育のさらなる充実と発展を図るために、昨年度の研究公開の成果を生かしつつ、次期学習指導要領や県の施策を鑑み、ICTを活用した学習活動の充実を図ることとし、研

究主題を「みまたん子の学力を伸ばす学習指導法の研究」、副題を「各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方」とし研究を推進することとした。この研究を通して、教師の授業改善につながるるとともに、児童生徒の情報活用能力の育成及び学力向上を図ることができると考える。さらにこのことは、町教育基本目標の「未来を創る 心豊かで活気あふれる 文教三股の人づくり」につながるものであり、大変意義がある。

III 研究目標

三股町の小・中学校において、児童生徒の情報活用能力の育成と学力向上を図るために、教師の授業改善に向けて、各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を究明する。

IV 研究仮説

三股町の小・中学校において、各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を究明すれば、教師の授業が改善され、児童生徒の情報活用能力の育成及び学力向上を図ることができるだろう。

V 研究の基本的な考え方

1 「みまたん子」とは

「みまたん子」とは、「文教みまた」の児童生徒である。すなわち三股町の小中学校に通学している児童生徒のことである。「文教みまた」の歴史に根ざした風土のもとで心豊かにたくましく学び、郷土「みまた」の未来を担う、三股町の小学校6校中学校1校の児童生徒である。

2 学力について

「学力」とは、各教科の知識・技能、学習意欲、望ましい学習習慣に支えられた、課題の解決に活用できる力と、活用するために必要な思考力、判断力、表現力ととらえる。

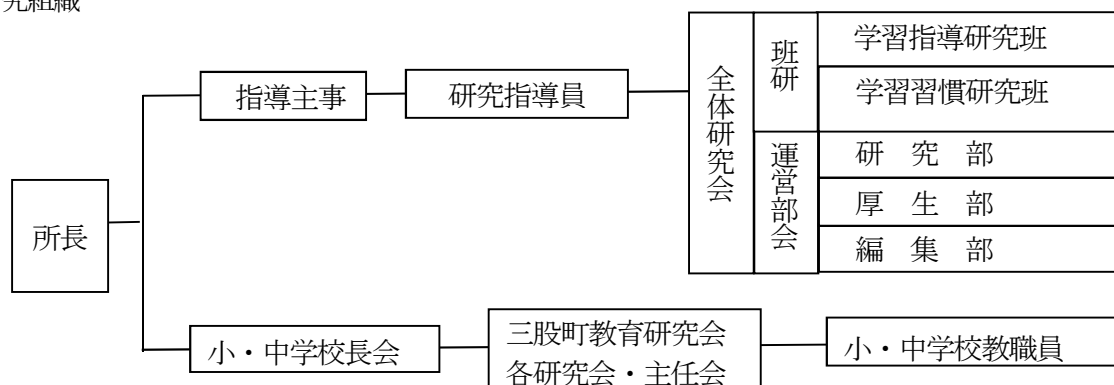
3 小中連携について

町内の小・中学校に勤務する全教職員が、郷土「みまた」の未来を担う「みまたん子」の学力を向上させるという共通の目的をもって、本研究の共通理解を図り、共通実践を行うものである。同じ取組を行っている町内の全ての小学校を卒業したほとんどのみまたん子が、三股中学校に入学した時、スムーズに学校生活になじめるような環境を整えることを目的としている。

4 基礎的・基本的な内容について

「基礎的・基本的な内容」とは、学習指導要領解説に示された各教科の内容である。各教科における知識・技能と限定されるものではなく、関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力等をも含む多面的なものである。

VI 研究組織



Ⅶ 研究構想



VIII 研究内容

1 学習指導研究班

(1) 授業モデルに関するアンケートの集計と分析

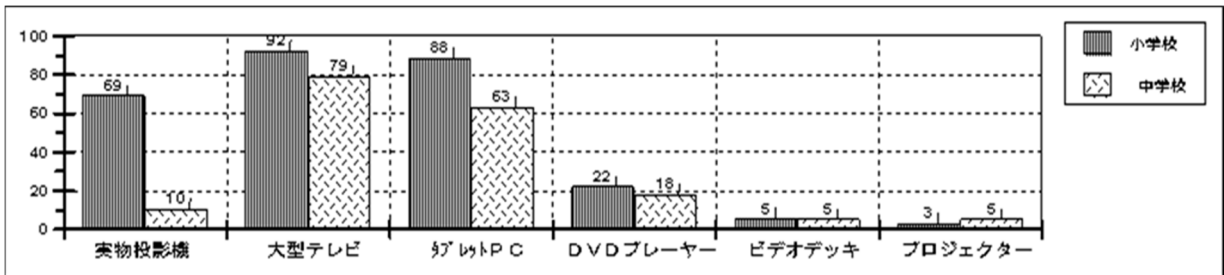
授業モデル（みまたんモデル）の実施状況及びICTの活用について実態把握をするため、町内小・中学校全教職員を対象に意識調査をした。

ア 授業モデル（みまたんモデル）について

<p>① 本時の目標（めあて）を提示していますか。 [み]</p>	<p>② 話し合い活動（ペア・グループ）を取り入れていますか。 [ま]</p>																				
<table border="1"> <caption>Q1: 本時の目標（めあて）を提示していますか。</caption> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中（中学校）</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>小（小学校）</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>中 neither</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	学校種別	割合	中（中学校）	97%	小（小学校）	100%	中 neither	3%	<table border="1"> <caption>Q2: 話し合い活動（ペア・グループ）を取り入れていますか。</caption> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中（中学校）</td> <td>176%</td> </tr> <tr> <td>小（小学校）</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>中 neither</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>小 both</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	学校種別	割合	中（中学校）	176%	小（小学校）	90%	中 neither	24%	小 both	10%		
学校種別	割合																				
中（中学校）	97%																				
小（小学校）	100%																				
中 neither	3%																				
学校種別	割合																				
中（中学校）	176%																				
小（小学校）	90%																				
中 neither	24%																				
小 both	10%																				
<p>昨年度の授業モデル（みまたんモデル）が実践されて、小・中合計してほぼ100%がめあてを提示して授業を行っていることが分かった。</p>	<p>小学校より、中学校が割合が下がっている。単元によっては、習熟の時間を確保するため、話し合い活動の時間が短くなっていると考えられる。</p>																				
<p>③ 目的に応じて自分の思いや考えを書かせる指導をしていますか。 [た]</p>	<p>④ 本時の学習のめあてを板書したり、ノートにまとめさせたりしていますか。 [た]</p>																				
<table border="1"> <caption>Q3: 目的に応じて自分の思いや考えを書かせる指導をしていますか。</caption> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中（中学校）</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>小（小学校）</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>中 neither</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>小 both</td> <td>6%</td> </tr> </tbody> </table>	学校種別	割合	中（中学校）	63%	小（小学校）	94%	中 neither	37%	小 both	6%	<table border="1"> <caption>Q4: 本時の学習のめあてを板書したり、ノートにまとめさせたりしていますか。</caption> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中（中学校）</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>小（小学校）</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>中 neither</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>小 both</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	学校種別	割合	中（中学校）	82%	小（小学校）	95%	中 neither	18%	小 both	5%
学校種別	割合																				
中（中学校）	63%																				
小（小学校）	94%																				
中 neither	37%																				
小 both	6%																				
学校種別	割合																				
中（中学校）	82%																				
小（小学校）	95%																				
中 neither	18%																				
小 both	5%																				
<p>小学校は発表を促すために、事前に考え方を書かせるので割合が高いと考えられる。一方、中学校は解き方を教師が説明して解かせるパターンが多く見られるので、考え方を書かせる割合が減っていると考えられる。</p>	<p>めあてに対応したまとめをする意識が高いことがうかがわれる。それは、めあてを提示する割合が高いので、それに伴ったまとめを行う割合が高いと考えられる。</p>																				
<p>⑤ 1単位時間の中に、練習問題や小テストなど（ドリル等）を入れていますか。 [た]</p>																					
<table border="1"> <caption>Q5: 1単位時間の中に、練習問題や小テストなど（ドリル等）を入れていますか。</caption> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中（中学校）</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>小（小学校）</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>中 neither</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>小 both</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>	学校種別	割合	中（中学校）	74%	小（小学校）	92%	中 neither	26%	小 both	8%	<p>小学校は、おおむね「たしかめ」の段階での練習問題の実施が定着してきている。また中学校は、教科担任制であるため、教科によって練習問題という形ではないが、授業内容の振り返りは行っていない。</p>										
学校種別	割合																				
中（中学校）	74%																				
小（小学校）	92%																				
中 neither	26%																				
小 both	8%																				

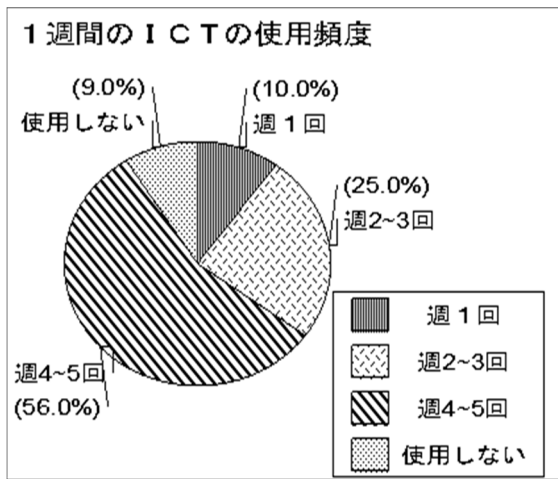
イ ICTの活用について

① 現在、授業で活用しているICT機器は何ですか。(複数回答可)



小・中学校ともに大型テレビの活用率が高い。児童数の多い学級においては、大きく映し出せるモニターとしての活用が多いと考えられる。また、タブレットPCは、9月に導入されたにもかかわらず、10月の段階で小・中学校合わせて80%以上の活用が見られた。今後、100%の活用を目指すために、研修機会を増やしその有用性を広めていく必要がある。

② 1週間のうちにICT機器をどのくらい使っていますか。



ICT機器をほぼ毎日活用している割合が50%を超えている。これは、ICT機器に堪能な教師のみが使っているわけではなく、学年間で活用に関する情報交換(授業での活用場面等)を行うことで、どの先生方も抵抗なく授業に活用できているからではないかと考える。また、ICT機器を使用しない割合も10%程度見られる。今後、タブレットPCを授業に活用する良さや有用性を実感できるような授業研究会を充実させていくことが課題である。

(2) 各教科におけるタブレットPCの活用例

① 国語～小学校第4学年「文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう」

「たしかめ」の段階で振り返りのためにタブレットPCを活用した。例えば「みかんはおいしい」と「えいようもある。」という2つの文をつなぐ言葉として「だから」「しかし」「それに」という働きの違う言葉がある。これらの言葉で、どう意味が変わるのかイラストを使って視覚に訴えて示すことができた。その際、パワーポイントで作成したものを、タブレットPCで次から次へとリズムよく提示し、集中力を持続させることができた。



② 数学～中学校第1学年「平面図形」



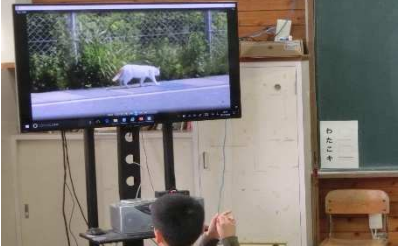

図形の移動についての学習で図形の移動がつかめるように、折り紙を使った具体物を生徒に作らせる際に活用した。作業をする手元を映し出し、どのように折るのか、どのようにはさみを入れるのかを視覚的に伝えた。口頭で説明するよりも分かりやすく、実際に生徒はスムーズに具体物を作成する活動を進めることができた。

(3) 授業検証

今年度はタブレットが導入された年であるので、どのように授業活用ができるか授業研究会を実施した。導入されて3か月程度だったので、タブレットPCの基本的な機能（動画再生、カメラ機能、ペンでの書き込み機能）を活用した授業実践を行った。




ア 第1回授業研究会 教師のみがタブレットPCを活用した授業

【第3学年 国語科「ようすをくわしく表そう」】

段階	学習活動と教師の手立て	児童の様子
ま な び あ い	<p>3 集団で学び合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「どんな」「どのような」を表す言葉の働きについて理解する。 ○ タブレットで白い猫の歩いている動画を見せ、「どのように」歩いているのかを考えさせる。 	 <p>白いねこがゆっくり歩いていきます。</p>
た し か め	<p>5 本時のふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 例題を解く <ul style="list-style-type: none"> ・女の子が（ ）ねている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットPCの画像を見て、例題に当てはまる言葉を考える。 <p>女の子がどのように寝ているかなあ。今日の学習を思い出してみよう。</p> <p>「女の子がすやすやねている。」と考えたけど、みんなはどうか？</p>

イ 第2回授業研究会 教師+児童がタブレットPCを活用した授業

【第4学年 理科「ヒトの体のつくりと運動」】

段階	学習活動と教師の手立て	児童の様子
ま な び あ い	<p>3 観察し、結果を記録する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の腕や手を触りながら曲げられる部分を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨と筋肉の他にも何かあることを感じ取らせる。 ○ 撮影した自分の腕の写真に観察結果を記録する。  <p>友達の手や肘が入るように撮影しよう</p> <p>4 自分の気付いたことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型テレビにサムネイル表示させ、全児童の気付いたことの表示から、発表児童の画像を拡大表示した。 	 <ul style="list-style-type: none"> ○ 腕が曲がる場所の印は赤、気付いた文字は青のように色を変えてタブレットPCに書いてタブレットPCの書き方を工夫している児童も見られた。  <p>友達の書き込みが参考になるなあ</p>

2 学習習慣研究班

(1) 家庭学習に関するアンケートの目的

三股町内の児童及び生徒、教師、保護者を対象に家庭学習についてのアンケート調査を実施した。昨年度の研究の成果として、家庭学習の充実により学力向上を側面から支えることができた。課題として、今後も学力向上に向けて保護者にも理解・協力してもらうよう繰り返し、啓発をしていく必要があることがわかった。そこで、今年度もアンケート調査の集計・分析から、課題や取り組むべき内容を明らかにし、各校の指導改善につなげたいと考えた。

(2) 家庭学習に関するアンケートの集計と分析 1（教師対象）

家庭学習に関するアンケート(教師用) 全体集計	4:とてもそうである		3:そうである		2:あまりそうでない		1:全くそうでない			
	低学年	中学年	高学年	特別支援学級	専科	小学校平均	中学校担任	副担任	特別支援学級	中学校平均
(1) 家庭学習の課題を与えていますか。	3.8	4.0	4.0	4.0	2.5	3.6	3.2	3.4	2.5	3.0
(2) 家庭学習の課題について評価し、その後のやり直しなどの指導を行っていますか。	3.6	3.5	3.5	4.0	2.4	3.4	3.0	3.2	2.5	2.9
(3) 家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図っていますか。	3.5	3.4	3.4	3.6	2.7	3.3	3.0	2.7	2.5	2.7
(4) 児童生徒に、家庭学習の方法等を具体例を挙げながら説明していますか。	3.6	3.4	3.4	3.6	2.8	3.4	2.8	3.3	2.5	2.9
(5) 保護者に家庭学習の方法等を具体例を挙げながら説明していますか。	3.3	3.2	3.1	3.4	3.3	3.2	2.1		2.0	2.1
(6) 家庭学習の手引き(個人で作成したものも含む)を活用して、家庭学習の方法を指導しましたか。	3.2	3.5	3.8	3.1	2.3	3.2	2.5		2.5	2.5
(7) 家庭学習の手引き(個人で作成したものも含む)について、保護者に説明しましたか。	3.4	3.4	3.4	3.3	2.0	3.1	2.2		2.5	2.4

【資料1 家庭学習に関するアンケート教師用調査結果】

家庭学習については、課題を与え、評価した後でやり直しの指導を行うなど、小・中一貫した共通実践を行っている。しかし、家庭学習の与え方についての職員間での共通理解については、小・中でばらつきが見られる。中学校で出される課題は、各教科担任からの課題、学級担任が出す宅習などさまざまであり、期日を指定された課題もある。各教科間での課題の内容や量などの把握が難しく、共通理解を図ることが難しい。

児童生徒への家庭学習の方法等の説明については、小・中一貫した共通実践を行っている。しかし、中学校は参観日が少なく、懇談会での保護者への説明の機会が小学校より少ないため、説明が十分ではない。

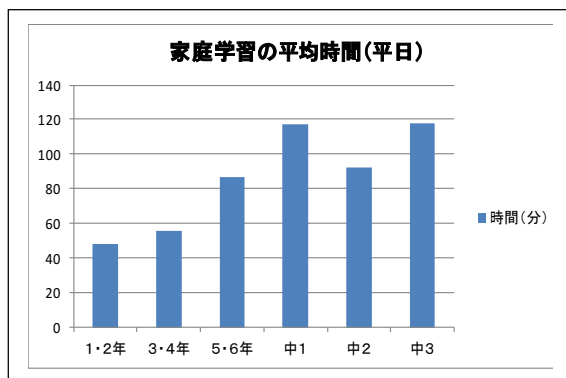
「家庭学習の手引き」の活用については、小学校では比較的活用されている。中学校では1年生の時に配付し、その後は生徒が持っている。小学校では、「家庭学習の手引き」や具体例を挙げた指導を行い、発達段階に応じた細かな指導が行われている。引き続き指導と啓発を行い、児童が目的意識をもって、家庭学習に取り組むことができるようにしていきたい。一方、中学校では、教科の特性を生かしながら、家庭学習を発展的に指導することが多い。また上記に述べたように、職員間の共通理解や保護者への啓発など難しい点があるようだ。このようなことから今後は、中学校ならではの特性を生かしつつ、職員間の共通理解や保護者への啓発の手だてを講じる必要があると考える。



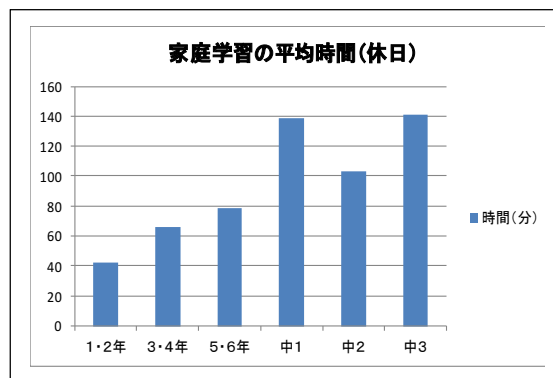
(3) 家庭学習に関するアンケートの集計と分析2（保護者対象）

家庭学習状況アンケート調査を実施した。解答者は保護者で、子どもさんと話し合いながら答えてもらった。（抜粋）

① 平日の1日あたりの勉強時間は？

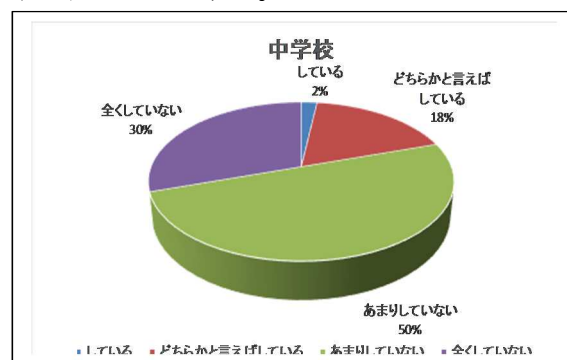
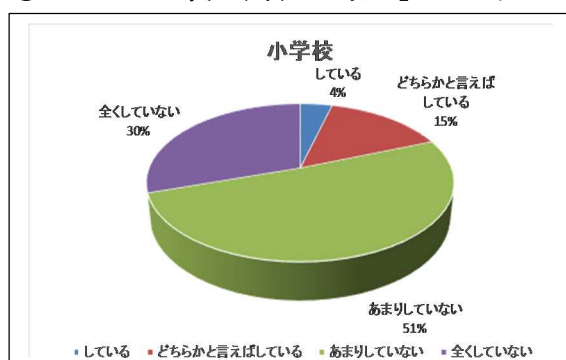


② 休日の1日あたりの勉強時間は？



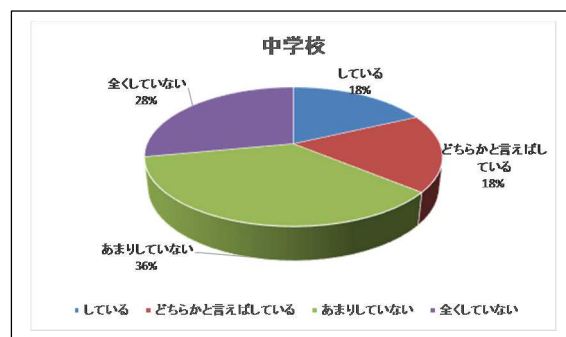
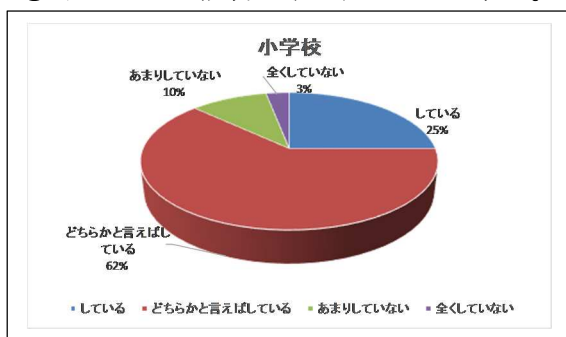
三股町が平日の学習時間の目安として設定している時間に、ほぼ近い時間学習することができている。

③ 「三股町 家庭学習の手引き」を参考にして取り組んでいますか。



年度初めに、児童生徒や保護者に説明しているが、家庭では、あまり活用されていない状況である。配付して終わりではなく、定期的に「家庭学習の手引き」を使って、振り返りをするなどの各校の取組が必要である。

④ 自ら進んで読書に取り組んでいますか。



三股町では、「1人80冊」を目標にしている。目標達成へ向けて、各校工夫を凝らした取組が実践されている。小学校に比べ、中学校では、読書のための時間を確保することが、難しいようである。

(4) タブレットPCの活用上のルール

タブレットPCを活用するにあたって、教師用・児童生徒用それぞれのルールを作成することにした。全国の活用上のルールの情報を収集し、それらを参考に作成した。

ア 教師用マニュアル

教師に向けての活用の仕方を示したマニュアルを作成した。使用上のきまり、基本的な操作、授業での使い方についてまとめている。

イ 児童生徒用

教師だけでなく、児童生徒用のきまりについても作成している。教室等に掲示して使用できるように検討している。



町内教職員の意見を参考にしながら、今後も改善を進め、児童の学力向上を図るよりよいタブレットPCの活用について研究していきたい。

IX 成果と課題

- 多くの先生方が各教科でタブレットPCを活用することにより、授業実践が多く集まり効果的な活用の在り方を究明する足がかりとなった。
 - 各校の情報教育担当や研究所研究員のサポートにより、タブレットPC導入年ではあるが、各校において積極的な活用が図られている。動画資料の提示の簡便化及び紙資料の軽減化、教材準備の時間短縮化などが図られた。
 - タブレットPC活用の授業場を「教師1台のみの活用」「教師＋児童一人1台ずつの活用」と設定することで、教師のみの活用だけでなく児童の授業での活用方法も検証し、授業で活用することの良さや課題を明らかにすることができた。
 - タブレットPCと大型テレビを使って、動画や写真など児童に視覚的に提示することができ、授業に対する関心が高まり、理解が深まった。また、パソコンと違って持ち運びができるので、机間指導をしながら指導ができた。
 - 教師が授業で気軽にタブレットPCを活用するために、簡単なタッチ操作やTVと接続しての使い方を図解入りでマニュアルの形にまとめることができた。
- タブレットPCを活用することで、具体的にどのような形で教師の授業が改善されているのか、経緯を見たり、どのような教育的効果が見られたか検証を行ったりする必要がある。
 - 教科ごとに、どのような活用法があるか、さらに研究を深めていく必要がある。
 - 児童生徒用のタブレットPCが各校に配当されていないため、大人数での授業（児童4～5名グループで1台活用等）を検証するまでに至っていない。また、児童生徒用のタブレットPCの使い方マニュアル作りを進めていきたい。
 - 機器トラブル等が起きにくくするため、使用するファイルを事前に確認したり、システムを単純化したりするなど使いやすいシステムの構築を目指す必要がある。

【引用・参考文献】

- ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
中央教育審議会
- ・ 小学校学習指導要領
文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領
文部科学省

【研究同人】

<研究員>

三股小学校 近藤 加代子	三股小学校 能勢 和弘	勝岡小学校 佐藤 文香
梶山小学校 日高 政晴	宮村小学校 奥野 左紀子	長田小学校 藤田 政宏
三股西小学校 小山田 友美	三股西小学校 今田 拓晃	三股中学校 木村 精吾
三股中学校 南 洋一郎		

<事務局職員>

所長（教育長）宮内 浩二郎	次長（教育課長）渡具知 実	課長補佐 恒吉 正昭
主幹 井上 千里	副主幹（指導主事）原田 誠	研究指導員 園田 修司